

令和元年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

税金がもたらす明るい未来

柏市立大津ヶ丘中学校 第二学年 渡邊 りりか

『二〇一九年十月から消費税が10%に！』税金の話の中で今最もホットな話題がこれなのではないでしょうか。実は二〇一四年に8%に引き上げられた後、二〇一五年十月には10%に引き上げられる予定だったのだとか。しかし、増税が経済や生活に与える影響を懸念し政府は二度にわたり増税を先送りにしたのだそうです。

そこで私は、なぜ消費税の引き上げを行うのか。また、なぜ法人税や所得税など数ある税金の中消費税なのか。と疑問をいだきました。調べてみるとやはり少子高齢化についての記事がたくさんでてきました。「少子高齢化により、社会保険料など、現役世代の負担が年々高まっている中で、社会保障財源のために法人税や所得税の引き上げを行うと、より現役世代に負担が集中することになってしまう。」というのが政府の考えなのだそうです。私はこの記事を見たとき納得と同じくらい感動をおぼえました。「そうだ！一定の人が納める税金ではなく高齢者も含め全員が納める消費税を増税することで負担を軽減できる。高齢化社会においてみんなで協力することができるといいな。」と思いました。

その中で、増税が行われる目的そして、使いみちは主に高齢者が中心なのか。と新たな疑問をいだいたのです。私の家は母子家庭でお母さんと私と妹の三人家族です。毎日お母さんが一生懸命働いてくれて、祖父母もたくさん助けてくれるため私の生活にはなんの不自由もありません。しかし受験生の夏をむかえて家族が私を中心に生活している中で思いあたるのがたくさんありました。例えば、私立の学費や予備校に行くお金などです。私が思いきってお母さんに

「もし、県立に行けなかったらどうしよう。」
と聞いたとき、

「大丈夫だよ！今は国が少し負担してくれる制度もあるみたいだし、自分が行きたい学校に行きなさい！」

と言われました。国が負担してくれる制度とは、就学支援金や授業料軽減助成金などのことで、私はこの話を聞いたときとても気持ちになりました。調べてみたところこの制度は家庭の収入によって受けられるもので最近はその基準なども改正されてきているそうです。これももちろん税金でまかなわれているということ、増税が影響を与えるのは高齢者だけでなく、私たち学生でもあると感じさせられました。

「増税」と聞くと一見マイナスにとらえがちですが、どれも全て国民や日本の未来を考え政府が決めていることです。私が税金で助けられている分、消費税という小さな額ではあるかもしれませんが誰かの力になれていればと思います。また、支援していただいていることへの感謝を忘れず夢に向かって一生懸命勉強に取り組んでいきたいです。